

歓迎セレモニーであいさつをするタイの高校生



「日本の文化学びたい」

タイの高校生10人訪問 室蘭・海星学院高

室蘭・海星学院高校(塚俊光校長、214人)に9日、タイ・バンコク市のドンムアンタハンアーカットバルムの高校生10人が訪れた。生徒たちは学校での授業やホームステイなどの経験を通して「日本の歴史や文化を学びたい」と意欲を見せている。(坂本綾子)

日本の高校生とアジア各国の高校生が互いの国を訪問して交流するイオンワンパーセントクラブの「日本タイティーンエイジアンバサダー」の一環。

歓迎セレモニーでは、海星の川端武士さん(2年)が「皆さんと会えるのを楽しみにしていました。室蘭はタイに比べると寒いですが、寒さを吹き飛ばし日本での楽しい思い出をつくってほしいです」とあいさつした。

タイの高校生は伝統的な踊りやムエタイのパフォーマンスを披露し、会場を盛り上げた。その後、授業に参加し日本の伝統文化の書道や華道、茶道などの部活動に参加。日本の高校生がどのように過ごしているのかを体験した。

ナッチャポン・ナンタジットさん(16)は「日本人はとても親切にしてくれて過ごしやすい。いろいろな所を見て、日本の文化を学んで帰りたいです」と話していた。

一行は海星生徒宅にホームステイしながら12日まで室蘭に滞在する。海星の生徒10人が2019年1月中旬にタイを訪れる。

同事業でタイの高校生との交流は1992年(平成4年)、04年に続き3回目。今回は海星のほか、愛知県名古屋市の津島市の高校生30人とバンコク市の高校生30人が交流を行う。